

谷口真由美講演会「憲法のはなしでっせ～もっと知って憲法を～」



第一部は「アンサンブル・サビーナ」による管弦楽コンサートを楽しみました。「豊かな音楽は、お互いを個人として尊重し、助け合う友情から生まれる」をモットーに主に女性の自立にまつわるクラシック曲を解説しながらの演奏でした。背景を知ることによって味わい深く聴こえ、「初恋」「ゴンドラの唄」といった日本の歌では、会場からも歌声が上がり、ホックリした空気に包まれました。

そして、谷口さんの講演。「憲法を学び、12年間1万人を超える学生に教えてきたが、こんなに憲法が取りざたされる時代が来るとは思わなかった」そうです。「護憲だ！改憲だ！と叫ぶ方々も、そもそも憲法を全部読んだことありますか？中身も分からずどこを守り、何を变えたいの？まず大事なのは『知憲』。憲法を知ること。感情論ではなく、愛情を持って勉強しましょう」と。

「法学は、覚えることでなく、思考の学問です」とも。例えば憲法判断を問われた選択的夫婦別姓。夫婦が同じ姓になるのは『伝統』『当たり前』という人は、ちゃんと説明できるの？『子どもがかわいそう』と言うなら、日本以外の国は父母の姓が違うが、皆不幸なの？自分と全く関係ない人が別姓を選んで、一体何が困るの？思い込みや『そんなもんや』で済ませてはダメ！」とオバチャン節は止まりません。「憲法は何条まであるか知ってます？たった103条。トイレでも読めます。」

「有名な『前文』や『9条』以外の皆さんの好きな条文は？私の推し条は99条。これは、政府やすべての公務員、権力者が暴走しないためにある（立憲主義）。97条は基本的人権について『侵すことのできない永久の権利』とうたい、12条には『国民の不断の努力によって、これを保持する』とある。」最後に、前文の「日本国民」を「私」「俺」と読み替えて、「他人事ではなく自分に引き付けて…」と。「69年間連れ添った憲法、知らんではかわいそう」と締められました。実は、記事を書いている私自身、法律家の端くれですが、国家試験のため憲法を全文読んだとき、感動して涙が出たことを思い出しました。また一度読み返し、自分なりの考えを持とうと決意しました。

(レポート：あきちゃん)

会員・ヒューマンライター募集中

- 人権意識をたかめるための研修会などへの参加・参画。
- 人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。
- 大東市で人権推進につながる取り組みを行っている方々の取材をしていただける方（ヒューマンライター）を募集します。

【応募方法】様式は問いません。

ご住所 お名前 電話番号を記載の上 郵送、FAX でお願ひします。

〒574-8555 大東市谷川1-1-1

大東市役所（市民生活部 人権室内）

人権啓発ネットワーク大東事務局

TEL：072-870-0441 FAX:072-872-2268

ぬくもり

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東
〒574-8555 大阪府大東市谷川1丁目1番1号
電話 072-870-0441 FAX072-872-2268

2016 ヒューマンコンサート ちひろ トーク&コンサート

鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。

～金子みすゞの心を歌う～



2月26日（金）大東市立総合文化センター多目的小ホールでのコンサートでした。金子みすゞさんの心を歌うちひろさんのトークと歌は、聞いている者の心をゆさぶり、明日からまたがんばろうと元気が出てくる内容でした。

一曲目は「私は花を咲かせるの」です。その透き通る声にまず感動しました。「日の光」と続きます、ちひろさんは言います。「光の後ろには影がある。ものごとの表面だけでなく影（陰）の部分も大切にしていきたい」と。続いて「大漁」の歌です。自然の摂理のせつなさ、人間はたくさんの命を頂いて生きています。感謝を忘れてはいませんか。

ちひろさんは東日本大震災の復興を祈るコンサートをしていく中で、南相馬市での大切な出会いの話をしてくれました。もうすぐ80歳の女性の話です。「あの日、大きな揺れを感じ、津波が襲ってくる中、父ちゃんとやっとのことで逃げました。全部流されました。地震が収まっても、なんて不幸な人生だと思ひ続ける毎日でした。

でも、仮設住宅の中で、いろいろな人と話して初めて生きている幸せを感じました。それは私には父ちゃんがいる。父ちゃんはすてきな笑顔で73歳でまだ働いている。二人でしっかり働いて新しい家を建てよう、と話しているんです。自分の周りに今まで気がつかなかった幸せ（父ちゃんがいる！！）に、大震災に遭って初めて気がついたんです。」この女性の話を紹介した後、ちひろさんは続けます。「人というもの、ふだん寂しさ、苦しさを隠して生きている。その相手の笑顔の奥にその人の歩んできた人生を感じることもできる人になりたい。」そのあとの歌も優しさとぬくもりにあふれていました。

ちひろさんの言葉は続きます。「すべてのもののおかげで今、私たちが自由に生きることができる。いや、生かされていると思う。感謝の気持ちを大事にしていきたい。」

金子みすゞを自分の人生の師匠と仰ぎ、全国を回っておられるちひろさんこそ、現代の金子みすゞだと感じました。

(レポート：ガンちゃん)

ナチスからユダヤ人を救った杉原千畝を称えて



野崎まいりが開かれた5月1日から4日間、人権啓発ネットワーク大東は、大東市とともに野崎観音会館をお借りして、第二次世界大戦初期にリトアニアの日本領事館領事代理だった杉原千畝さんの功績を称えるパネル展を開きました。第二次世界大戦が始まった1940(昭15)年当時、ドイツのナチス・ヒトラー首相が、国民の不満を利用してユダヤ人に対する迫害や大虐殺を扇動し、その一方で国民を他国との戦争に駆り立てました。この時、ドイツ、ポーランドと旧ソ連に挟まれた、北海道よりも少し小さな国・リトアニアの日本領事館領事代理だった杉原さんは、日本領事館に助けを求めてきたユダヤ人を安全な国に逃がすために、旧ソ連を横断して日本に入国させるためのビザを次々に発行したのです。このビザ発給によって多くのユダヤ人が日本を経由して他国に逃げるなど、6,000人もユダヤ人がナチスによる虐殺から命を助けられたといわれています。

リトアニアに駐留していた旧ソ連軍からすぐの出国命令があったり、日本外務省からビザの発給自粛と緊急の帰国命令があったなかで、杉原領事代理は出国列車が駅を出るまで、助けを求めるユダヤ人に日本行きビザを発給したのです。

日本に戻った杉原さんは、2か月ほどで外務省を辞めています。杉原さんは、後にイスラエルから勲章を受けたりするなど、86歳でなくなるまで当時命を助けられたユダヤの人たちとの交流が続いたといえます。

戦争中、外国の地でナチスや周辺国から圧力を受け、日本国からのビザ発給自粛の命令をも押し切った、孤独な立場で迫害を受けている人たちを守り抜こうとした信念は、60年後に河野洋平外務大臣(当時)から「極限的な局面で、人道的で勇気ある判断」との賞賛されたことを待つまでもなく、国民の誰もがそんな強さを持ちたいと感じずにはいられませんでした。野崎まいりの本堂前の賑わいもあって、パネル展には4日間で延べ3,032人の入場者がありました。地道な人権啓発の繰り返しを通して、「ぬくもり」ある人権擁護のまち大東へ一歩ずつ近づいているんだなあ、と自身で感心した人権パネル展でした。



外テントでは杉原千畝生誕の地(岐阜県八百津町)の特産品を販売しました。

(レポート: 松ちゃん)

い い となりの活き生きサン

「子どもを守ることによって僕の健康が守られているんです」

子ども安全見守り隊に参加している活き生きサンを訪ねて

朝8時頃。見守り隊の方たちの声に横断歩道を渡り始める子ども達。

四条北小学校区の活き生きサンは、毎日朝夕、通学路の津の辺公園入口の信号機付近で黄色い旗を持って立ち、車の通行が多い府道を横断する子どもたち一人ひとりに「おはよう」の声をかけながら、5人のメンバーで見守っている「子ども安全見守り隊」の一人です。

「毎日立っていると、赤信号でも自転車は行くし、自動車も時々違反して進むことがあって、よく注意しないと危ない。」

「今の子どもたちは疲れているのか、僕らが『おはよう』と声をかけるまで、挨拶をしてくれない子もいます。だから僕らが元気な声で挨拶をすることを心がけているんです。でも、夕方下校時には『おかえり』『ただいま』と元気な返事が返ってくるし、公園に遊びに来る子ども達は元気がよく、その声にホッとします。」と活き生きサンは言います。

72歳になる活き生きサンは、6年前に奥さんを亡くし、一人で生活をするようになって生活リズムが崩れたといいます。寝たり起きたりは不規則で、食事は外食ばかり。老けた自分を感じた昨年7月、子ども安全見守り隊をしていた近所の人から誘われて、誰に任命されたわけでもないのですが見守り隊に加わった。今では毎朝6時40分に起きて、7時40分から30分間子ども達の元気な顔を見て学校へ送り、午後は2時30分から2時間信号機付近に立っていると、公園で遊ぶ元気な子ども達の声が聞こえてきて、自分自身が毎日元気をもらっていると感じているようです。

「子ども安全見守り隊の活動を始めて、孫のような子ども達から力をもらって自分が若返った。子ども達を見守りながら、子ども達に自分の健康を守ってもらっているのかもしれない。」と、活き生きサンは毎日の見守りに生きがいとやりがいを感じているようでした。

四条北小学校教頭の岸野先生にお聞きすると、校区の見守り隊は60人。ユニフォームは学校支給だが完全ボランティア。「通学路の隅々に立って子ども達の安全を守っていただいています。学校にとってなくてはならない皆さんで、大変助かっています。」と話しています。

各校区でも続けられている見守り隊の姿を朝夕に見かけます。いつもお疲れさまです。

(レポート: 松ちゃん)

